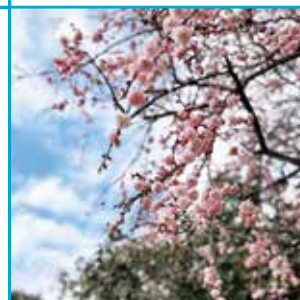


WIN CONCORD
WIN コンコード

NEWSLETTER

2025
vol.35



「WIN コンコード設立 33 周年の集い」に寄せて

和歌山大学名誉教授 長友 文子

2024 年 11 月 9 日に「WIN コンコード設立 33 周年記念の集い」が開催され、私もご招待いただき出席させていただきました。会場では、私が和歌山大学に赴任して初めて教えた元留学生たちをはじめ、大勢の懐かしい元留学生の方々に再会できました。みなさん、立派になっていて、時の流れを改めて感じましたが、でも、「長友先生」と呼んでくれるその姿は、当時の面影そのままでした。

この集いのおかげで、元留学生の方々と当時の思い出をたくさん語り合う中で、改めて感じたことがあります。それは、元留学生たちの WIN コンコードへの感謝が、単に留学生時代にお世話になったことに対するものではない、ということです。私は、WIN コンコードの留学生への支援が計り知れないものだということは知っているつもりでしたが、改めて WIN コンコードの存在の偉大さを知ることができました。

留学生たちは、当時支援して頂いたことをあれこれと思い出しては、WIN コンコードへの感謝の気持ちを話してくれたのですが、それだけではありませんでした。これまでの人生を振り返ったとき、和歌山を離れた後も、WIN コンコードの方々に出会って支援してもらったことが自分の生き方の指針になっている、という話を何人もの留学生

から聞きました。

和歌山での留学生生活で WIN コンコードの方々との出会いが人生を左右するというのは、本当にすごいことです。卒業してからも、何十年も留学生と WIN コンコードがつながっている理由は、ここにあるのだと思いました。人との出会いとつながりをずっと大切にすることで、卒業してもつながりが切れないのです。世の中が変わっても、留学生それぞれの環境が変わっても、WIN コンコードの方々の留学生に対する思いは変わりません、その変わらぬ思いが、和歌山に行けばいつでも会えるという安心感を元留学生たちに与えているのです。これこそが、WIN コンコードの素晴らしさだと思います。

私が和歌山大学に赴任したのは 30 年前、WIN コンコード創立の 3 年後にあたる 1994 年のことでした。

当時は正規学部留学生がほとんどで、全体の留学生数は二桁という時代でした。それから 30 年間、私は和歌山大学で、毎年、留学生を見送り、そしてまた迎え入れるということを繰り返してきました。何人の留学生との出会いと別れを繰り返してきたことでしょう。

私が昔も今も留学生たちに期待しているのは、大学のキャンパスだけでなく、地域に出てさまざまな人と出会い、和歌山を知ってほしいということです。この願いを実現してくれたのが WIN コンコードの活動です。WIN コンコードの方々は、和歌山に再び訪れる元留学生を、「おかえりなさい」という温かい言葉で迎えています。そしてまた、





元留学生たちも「ただいま」と言って和歌山に帰ってきます。ここに WIN コンコードが掲げる「世界と和歌山をつなぐ」「ヒューマン・アクティブ・ネットワーク」という言葉が体现されています。

私自身、WIN コンコードからたくさんのことを学ばせていただきました。それは、「人を思いやること」、「他人を理解すること」です。形だけの支援ではなく気持ちのある支援、それは必ずその人に通じ、その人を動かす力になるということです。WIN コンコードの活動に「多言語多文化共生社会」の姿を見ているような気がします。

これからも、これまでと同様、時には母のような気持ちで、時には父のようなおおらかさで、いつも留学生を見守っていてほしいと思います。

この「WIN コンコード設立 33 周年の集い」で再会したおかげで、何人もの元留学生と連絡を取り合うようになりました。

私も「世界と和歌山をつなぐ」「ヒューマン・アクティブ・ネットワーク」の理念を大切にしながら、これからの人生を歩んでいきたいと思います。

最高の出会いと最高の再会

金 安琪（中国）

二年ぶりに修士課程での留学で再び日本に来ることができ、さらに「WIN コンコードの 33 周年の集い」に参加できたことは非常に幸運な出来事である。人生を一冊の本に例えるならば、和歌山の皆様の出会いと再会は、私の人生の中でも輝かしい頁だ。

和歌山という土地との出会い、WIN コンコードという団体との出会い、そして共に留学生活を送った友人たちとの出会い—これらのすべてが私の心を

癒し、満たしてくれた。コロナ禍という困難な時期に和歌山大学で交換留学をしていたが、孤独に苛まれることはなく、常に留学生活を楽しみ、毎日が楽しく充実していた。八朔狩り、クリスマスパーティー、和歌山の名勝地を訪れたことなど、楽しい思い出は数え切れないほどある。これらはすべて、WIN コンコードの方々の温かい気配りがあったからこそ実現したものだ。日本文化を体験し、交流を深める機会を得たことで、多くの友人ができ、和歌山との繋がりをより一層感じるようになった。これが、私の日本での「最高の出会い」だったと思う。

「33 周年記念の集い」当日、会場に入ると懐かしい顔が次々と現れ、不思議な感覚と共に感動を覚えた。それはまるで映画のワンシーンが目の前で再現されているようで心を揺さぶられるほどだった。「皆元気でいてくれて何よりだ」と自然に思い、そして以前と変わらず近況を語り合いながら、皆と笑顔で抱擁を交わした。まさに「Yesterday Once More」が具現化された瞬間である。

初めてお会いした先輩方もいたが、全員が WIN コンコードの一員として、まるで家族のような親近感を共有し、それぞれの思い出を語り合った。ステージで感想を述べる場面では、「和歌山は第二の故郷」という言葉を何度も耳にし、私自身も強く共感した。そして改めて和歌山への帰属感を再認識した。これこそが「最高の再会」だと言える。

私がステージで話したことと同じだが、一時的に離れることは、次回のより素晴らしい出会いのための準備にすぎない。私と WIN コンコードの皆さん、そして留学生仲間とのご縁は、しっかりと繋がっている。たとえどれほど時間が経とうとも、皆で過去を振り返り、未来に向かってともに歩むことができると信じている。和歌山での最高の出会いがあったからこそ、再会のたびにそれが「最高の再会」となるのだ。



キスティナ (マレーシア)

ルタ (インド)

和歌山に到着したとき、私はこの地について何も知らず、非常に不安であった。慣れない土地での新しい生活がどんなものか想像もできず、少し怖い気持ちさえあった。しかし、時間が経つにつれて、和歌山の温かいコミュニティや親切な人々と出会い、次第にその温もりに包まれることができた。今では、和歌山で過ごした日々すべてに心から感謝している。

特に、WIN コンコードは私たちをさまざまな場所に連れて行って、貴重な体験をさせてくれたことは、今でも忘れられない。留学中のサポートを通じて、WIN コンコードが育んだ絆を強く感じ、私の人生にとってかけがえのない存在となった。

また、WIN コンコードの記念イベントでは、マレーシアの伝統芸能「ディキル・バラット (Dikir Barat)」を披露する機会があった。ディキル・バラットは、昔、マレーシアの農村で人々が集まって楽しむために始まったグループパフォーマンスである。みんなで歌ったり、リズムに合わせて動いたりして、一体感を大切にする。友達と一緒に練習した時間はとても楽しく、たくさん笑いあった。本番では、皆さんもとても温かく応援してくれて、本当にうれしかった。とても幸せな気持ちになり、忘れられない良い思い出になった。

最後に、今回のパフォーマンスを行い、参加できたことに心から感謝している。イベントに参加することで、皆さんがまるで親のように私たち留学生を支えてくれる温かさを感じた。その優しさに触れ、改めて自分がどれだけ幸運であるかを実感した。あの瞬間、私たち全員が一つになり、深い絆が生まれたように感じた。



日本にいたのがいかに孤独かを考え続け、そのような2ヶ月前までの私と同じような気持ちを少しでも表している人がいると、そのことについて長々と話す。しかし、ある週末日本滞在に関して気持ちがガラリと変わった。

日本に戻ると分かってからずっと、和歌山に行くことについて計画していた。和歌山は私が1年間留学し、地元のとても愛らしい方々と出会った場所である。和歌山大学の留学生生活を充実させるために全力を尽くしている「WIN コンコードの33周年記念集い」に参加するために訪れた。

WIN のメンバーは結構年上かもしれないが、20年代のクラスメートの誰よりも活発で、熱心で、好奇心旺盛である。一人と言語交換について話すことができれば、もう一人とは男女差別について白熱した議論をすることができる。同様に、農業やハイキング又は、文化的なニュアンスや言葉遣いについて教えてくれる方もいた。それぞれの会話は多種多様だったが共通点が1つあった。彼らはいつも助けてくれる存在だったのである。常に知恵と無条件のサポートで私たちを支えてくれた。

1年ぶりに再び会え、感動した。1989年に留学した1人の出席者がいたがWINが強い絆を育むことの証拠ではないかと思う。まるで親が子供を家に迎えているようだった。会場は笑顔、喜び、再会のおしゃべりで溢れていた。

親友に会えたことは懐かしいものだった。別れる時、それぞれの母国を訪問し、結婚式に招待することを約束していたにもかかわらず、もう長い間会えない可能性を忘れてはいなかった。丸一年、一緒に留学し、同じ問題に直面し、同じ目標を目指していた。それは競争や嫉妬の種になったかもしれないが、そういう気持ちは一切もなく、どんなことも皆で乗り越えたことしか覚えていない。

私たち皆は、言葉が通じない様々な国々の集まりだった。それでも、日本語のおかげで、皆さんを結びつけていた。2024年11月9日を頭の中で再現するたびに、日本の方々から歓迎されていることを思い起こす。それはなんとも言えないほど素晴らしい気持ちである。

WIN、和歌山大学、出会った皆さんに深く感謝致します。

貴重な体験

松下 勤（会員）

先日、「WIN コンコード設立 33 周年記念の集い」がありました。私はその前身である WIN インターナショナルの時代から WIN(WAKAYAMA Information Network) の活動に参加しています。WIN インターナショナルは、和歌山に住んでいる外国人に日本のこと、和歌山のことを知ってもらう目的で、英文のニュースレターを発行していました。

和歌山大学への留学生が増えた 1999 年に、留学生の支援と交流を目的とした WIN コンコードとして発足し、ニュースレターも日本語になりました。WIN コンコードが初めに取り組んだのは留学生の生活支援で、自分で調達できないふとんや電気製品等生活用品を家庭で使わなくなった方から寄付してもらって、私達が留学生の寮やアパートに搬入するのが役目でした。

次に、留学生と会員の交流の機会として、4 月には新入生歓迎会を兼ねた和歌山城の花見や夏の有田川上流でのキャンプ、ハイキング、会社訪問、ホストファミリー、留学生の故郷を語る会などを企画しました。

私が担当したのは、希望する留学生に日本語学習や日本の歴史、地理等大学の授業にないレッスンでした。会館やアパート、WIN 事務所、時には和歌山の教室を借りてのレッスンを、有田市から和歌山市へ出かける形が長年継続しました。一番多く一緒にレッスンしたのは中国人留学生でしたが、私も行かずして留学生から外国の知識を学ぶことができ、結婚式に招かれたこともありました。

WIN のこれらの活動は、他では得られない貴重な体験としていつまでも記憶に残る思い出です。



楽しい思い出

花田 慎一郎（会員）

私が WIN コンコードに参加させて頂いたのは、ほぼ 30 年前 50 歳を少し過ぎた頃でした。海瀬社長からあなたは遊びが得意だから、WIN の仕事少し手伝ってと言われたのがきっかけです。

その頃の大きなイベントは夏の清水キャンプと冬の社会見学会とスキー実習でした。キャンプは 30 名を超える留学生とスタッフ 10 名の大人数でした。

清水町は海瀬社長の生家で林業関係の事務所のあるところ。ここで全員が一泊します。到着すれば、すぐ食事の準備に WIN のお母さん方が取りかかってくれます。早速留学生達は手作りの美味しい料理を頂きます。食事が済めば全員水着に着替えて下の川に泳ぎに行きます。川にもぐったりゴムボートに乗ったり魚を釣ったりと夕方まで楽しく過ごします。

帰ってから庭で焼肉パーティーの準備、煉瓦で作った大きなコンロの蒔きに火を付けます。沢山のお肉を乗せて、パーティーの始まりです。近くの方が鮎やサバの柿の葉寿司などを差し入れしてくれました。盛り上がってくると、南米の留学生を中心に歌を歌い踊り始めます。世界中から集まった留学生が一つになって楽しい夜を過ごします。この日最後のイベントは龍神スカイライン護摩山近くまで行って星の観察です。真っ暗な夜空に天の川がはっきり見えました。山を下りて宿泊場所に帰り楽しい一日が終わりました。留学生も新しい経験をされたと思います。

このイベントは 20 年続きました。

私自身も留学生と楽しい体験ができたことは良い思い出となりました。



パキスタンの魅力：自然と文化

アーメド（パキスタン）

パキスタンは南アジアに位置し、多様な文化と長い歴史、そして美しい自然に恵まれた国です。高い山々や古代の都市など、旅行者を魅了する多くのスポットがあります。

有名な都市のひとつが「ラホール」です。芸術や音楽、美味しい料理で知られ、「国の心臓」とも呼ばれています。世界遺産の「ラホール城」や壮麗な「バードシャーヒー・モスク」などの歴史的建造物が見どころです。旧市街のバザールでは、地元の人々の暮らしや活気ある雰囲気を体験できます。さらに、ラホールのフードストリートでは、チャナチャート、サモサ、ラホーリーフィッシュなど、地元料理を味わえます。



（ラホールのフードストリート）

北部の「フンザ渓谷」は、カラコルム山脈に囲まれた静かで美しい場所です。澄んだ川と新鮮な空気、そして人々の温かさが訪れる人を魅了します。「アルティット城」や「バルティット城」などの歴史ある建物も見逃せません。

南部のシンド州には、紀元前 2500 年頃のインダス文明都市「モヘンジョ・ダロ」があります。整った排水システムやレンガの建物は、当時の高度な文明を示しています。

料理も旅の楽しみのひとつです。カラチのスパイシーなビリヤニ、ラホールのシーケバブ、そして甘いお菓子のグラブジャムンやジャレビなど、地域ごとに異なる味を楽しめます。屋台ではその場で調理された料理が手軽に味わえ、香辛料の豊かな風味が魅力です。さらに、パキスタンの伝統工芸もお土産におすすめです。手織りのカーペットや刺繍入りのショール、陶器などが人気です。ラホールやムル

タンでは、カラフルな「トラックアート」グッズも手に入ります。

移動手段も豊富で、バスや列車、国内線の飛行機などが利用できます。都市部ではリクシャーや配車アプリ「Careem」が便利です。簡単なウルドゥー語の挨拶「アッサラーム・アライクム（こんにちは）」や「シュクリーア（ありがとう）」を覚えておくと、現地の人々との交流がより楽しくなります。

さらに、パキスタンには豊かな祭りの文化もあります。「イード・アル・フィトル」や春の訪れを祝う「バサント」など、色とりどりの風を空に舞わせる祭りが人々を楽しませます。北部の「シャンドゥール・ポロフェスティバル」では、標高の高い場所でポロの試合が行われ、地元の人々はその技術を披露します。また、パキスタンの気候は地域によって異なり、南部は温暖な海洋性気候で、カラチなどでは暑い夏を迎えます。一方、北部のギルギット・バルティスタン地方は、年間を通じて涼しく、登山やハイキングに最適な場所です。パキスタンの田舎では、静かな自然を楽しむことができます。スワット渓谷やチトラールなどの地域は、手つかずの美しさと温かい人々が魅力です。川のそばを散歩したり、緑豊かな森林を歩いたり、壮大な山々を見ながら登山することができます。

さらに、パキスタンは自然の美しさでも知られています。フンザ渓谷のカリムアバードは、雄大な山々に囲まれ、驚異的なトレッキングスポットを提供しています。多くの旅行者は、世界第 9 位の高峰であるナンガ・パルバットの麓にある美しいキャンプ地「フェアリーメドウズ」を訪れ、自然の魅力を満喫します。



（フェアリーメドウズ）

パキスタンの首都イスラマバードでは、世界最大級のモスクであるフェイサル・モスクがあります。モスクの周りはマーガラ山脈の美しい景色が広がり、静寂の中で心を落ち着けることができます。

パキスタンの南東部に位置するタール砂漠は、広大な砂丘と鮮やかな伝統的祭りで知られ、異なる文化や風景を楽しむ冒険者にとって魅力的な場所です。パキスタンで最も魅力的なのは「人々の温かさ」です。どこに行っても笑顔で迎えてくれ、まるで家族のように接してくれます。この心のこもったおもてなしは、訪れる人々に深い感動を与えるでしょう。

和歌山での成長と出会い

ファーイ（タイ）

2024年10月から始まった和歌山大学での交換留生活は、私にとって大きな挑戦であり、素晴らしい経験となりました。留学を通じて、和歌山はただの場所ではなく、そこで出会った人々が私の人生を豊かにしてくれることに気づきました。

最初はすべてを一人で始めることに不安を感じ、何事も自分一人で解決しなければならない状況が大変でした。しかし、この経験を通して、一人で何もかも抱え込む必要はなく、周りの人たちとのつながりがとても大切だと学びました。和歌山での生活を振り返ると、私が一人で乗り越えられたのは、周りの人々の支えがあったからだと感じています。最初は慣れない場所で不安がありましたが、そんな時、和歌山大学の教授やスタッフ、友達がいつも助けてくれました。特に言葉の壁や文化の違いに悩んでいたとき、周囲の人たちは優しく接してくれて、私の不安を少しずつ解消してくれました。どんな小さな問題でも、彼らは親身になって助けてくれ、その温かさに何度も励まされました。

和歌山大学での授業は、学問だけでなく、異文化を学ぶことにも役立ちました。日本の教育方法や教授の教え方を学び、勉強がもっと楽しいと感じるようになりました。また、他の留学生とディスカッションやグループワークをすることができました。

和歌山に来てから、私は日本の文化や自然、そして人々についてたくさん学びました。和歌山には美しい自然が広がっていて、訪れるたびに新しい発見がありました。特に、地元の柑橘類を収穫した経験は印象に残っています。果物狩りを通して農業への理解が深まり、地元の人たちがどれだけ一生懸命に作物を育てているのかを知ることができました。また、和歌山の美味しい料理も楽しみの一つでした。新鮮な魚や梅干し、地元の名物

料理を食べることで、日本の食文化をもっと知ることができました。

和歌山で出会った学生たちとは、一緒に過ごす時間を通じて、お互いの夢や目標を語り合いました。友達と買い物に出かけたり、一緒に遊んだりすることで、「一人ではない」と実感しました。この経験は私にとってとても大きな意味がありました。私たちは一緒に笑い、時には悩みながらも、成長することができました。お互いの夢や人生について語り合い、心の中で支え合ったことが大切な思い出です。

特に思い出に残っているのは、親友たちと一緒に旅行したこと。2月に行った白浜、円月島、千畳敷などの場所では、寒さに震えながらも楽しい時間を過ごしました。交換留学が終わる前、友達からは「これからは自分一人でも生活できるようになってほしいし、また会えることを楽しみにしている」と言ってくれました。その言葉を聞いたとき、別れが寂しい反面、人生には出会いと別れがあることを改めて感じました。

美しい場所を訪れたこと、新しい人々と出会い、異なる文化に触れたことは、私の人生を豊かにしてくれました。紀伊半島の山や海の美しさを感じ、自然の大切さを改めて実感しました。和歌山市内の「紀三井寺」や「和歌山城」も訪れ、日本の歴史と伝統に触れることができました。これらの場所で過ごす時間は、ただの観光以上の意味がありました。

和歌山での生活が終わりに近づくにつれて、この場所での思い出を胸に、次のステップに進む準備をしています。そして、これらの様々な経験は、これからも私の心に残り続けることでしょう。これからも自分自身を大切に、成長し続けたいと思っています。和歌山で過ごした時間は、私の人生の宝物となり、これからの歩みを支え続けてくれると信じています。



新留学生紹介(2025 年)

サイコーン (ラオス)

皆さん、こんにちは。私の名前はポムビジット・サイコーンです。2001 年 8 月 6 日にラオスのチャンパーサック県で生まれました。幼少期はタイで過ごし、8 歳のときにラオスに戻り、学業を続けました。中学校卒業後、高校に進学したかったのですが、経済的な理由で通うことができませんでした。そこで、僧侶となることで Phonesim 中等学校で高校教育を修了しました。その後、大学進学を目指し奨学金を探していたところ、Child's Dream Foundation の奨学金を知りました。私はこの機会が人生を変えるチャンスだと考え、応募し、幸運にも合格しました。この奨学金の支援を受けながら、サワンナケート大学の日本語学科で学びました。

私が日本語を選んだ理由は、日本文化が好きで、日本人々がラオスに示してくれる優しさに感謝しているからです。特に、JICA（国際協力機構）などの日本の組織は、ラオスの教育やインフラの発展に大きく貢献しています。その活動に感銘を受け、私も将来、日本の組織で働き、ラオスの発展に貢献したいと考えるようになりました。大学 3 年生のとき、MEXT 奨学金 2024-2025 の存在を知りました。私は 2022 年に JENESYS 交換プログラムで初めて日本を訪れ、日本の文化や社会に魅了されました。その経験が、日本で学ぶ夢を強くしました。そこで、

在ラオス日本国大使館で試験を受け、MEXT 奨学金に合格し、現在は和歌山大学で日本語と日本文化を学んでいます。

和歌山大学に来てから、多くの人々と出会いました。僧侶として生活していた頃とは異なり、最初は新しい環境に戸惑いましたが、少しずつ日本の大学生活に慣れてきました。今は、日本語の勉強を続けながら JLPT の試験にも向ける準備しています。この機会を大切に、将来は日本とラオスの架け橋となり、国際協力に貢献したいと考えています。最後までお読みいただき、ありがとうございました。

ニラム (マレーシア)

はじめまして。NUR NILAM SAFFIYA と申します。ニラムとお呼びください。マレーシア出身で、和歌山大学経済学部の新入生です。3 月 19 日に日本に到着する予定です。私は一人っ子です。

暇なときはピアノを弾くことが大好きで、日本でもこの趣味を続けたいと思っています。音楽を通じて新しい友人と出会い、一緒に演奏する機会があれば嬉しいです。

また、私は日本が大好きで、子どもの頃に 4 回訪れたことがあります。その時から日本の文化や雰囲気の魅力を感じ、いつか日本で学びたいと思うようになりました。高校時代、アニメを見るのが好きで、それも日本への興味を深めたきっかけの一つです。

食べ物については、マレーシアの日本食、寿司などはあまり好きではありませんが、和牛やたこ焼きが大好きです。ただ、日本ではハラルのを見つけ



るのが難しいと感じています。また、ラーメンもとても好きなので、日本で美味しいラーメンを楽しめたらいいなと思っています。もしおすすめの食べ物があれば、ぜひ教えてください。まだ日本について、わからないことも多いですが、日本で私や他の3人のマレーシアからの新入生たちをどうぞよろしく願っています。

アリヤ（マレーシア）

こんにちは。アリヤと申します。マレーシアから来ました。今年から和歌山大学でシステム工学を専攻し、留学生として勉強を始めることになりました。日本に来るのは初めてで、少し緊張していますが、たくさんのことを学び、成長できるように努力していきたいと思っています。日本の文化や生活に触れ、自己成長できる貴重な機会を大切にしたいです。

和歌山大学はとても素晴らしい場所で、学びやすい環境が整っていると感じています。また、和歌山の美しい自然や歴史的な場所、独自の文化にも大変魅力を感じています。和歌山にいる間に、地元の人々とも交流し、さまざまな経験を積んで、素晴らしい思い出をたくさん作りたいと思っています。

趣味としては、日本の音楽やアニメが大好きで、自由な時間にはアニメを見たり、音楽を聴いたりしてリラックスしています。アニメの中でも、特に日本の文化や日常生活を描いた作品が好きで、そこから日本語や日本の習慣について学ぶことができるのがとても楽しいです。将来的には、アニメやゲームのシステム開発にも関わってみたいと考えています。

これからの学生生活を充実させるために、勉強や友達作りを頑張りながら、和歌山の魅力を存分に楽しんでいきたいと思っています。どうぞよろしく願っています。

ロン（ベトナム）

こんにちは！私はベトナムから来たダン タインロンと申します。いまは和歌山大学で一年間日本語日本文化研修留学生として学んでいます。ベトナムのホーチミン市師範大学の三年生で、日本語と日本文化を専攻していました。

和歌山大学で学ぶことは、まるで夢のようです。日本の大学生になれるし、優しい先生の気配りを受けられるし、WIN コンコードのメンバーから温もりも受けられるし、様々な国からの友達ができて、やっぱり有意義な青春時代だと言えます。

以前、私はおとなしくて無口で人と接するのが苦手な性格だと思っていました。でも、日本に来て、



グローバル的な環境に触れてからというもの、いつの間にかすっかり新しい生活に溶け込んでいました。

私の趣味は撮影と音楽です。撮影については、和歌山の景色だけではなく、日本の色々な素晴らしい絶景も撮影しました。日本にいる残り時間はできる限りたくさんの日本の素晴らしい景色を撮影して、脳裏に焼き付け、帰国しても、もう一度そのときの貴重な時間を回顧したいと思います。

私は将来日本語教師になりたいという夢を持っています。日本語がペラペラで、日本事情をしつかりと熟知している先生になる道は長くて険しいかも知れませんが、毎日頑張っています。一年間日本の和歌山で取得した素晴らしい経験を通じて、自信を持って信念を貫ぬきます。帰国した後、その経験を次の学生世代に伝えたいと思います。

これからもよろしく願っています。

ファイ（マレーシア）

初めまして、私はファイと申します。マレーシアのペラ州で生まれ、セランゴルで育ちました。4人兄弟の長女で、兄が2人、妹が1人います。好きな食べ物について話すと、母の手料理が一番で、いつも楽しみにしています。でも、カレーはあまり好きではありません。

子供の頃、父に本屋に連れて行ってもらい、今は自由時間があれば読書を選ぶことが多いです。実は、留学することは考えたことがありませんでしたが、生まれてから今まで家族と一緒に住んでいました。

高校生の時、ある日父が私に「遠いところで勉強したいなら、海外へ行ったほうがいい」と言いました。また、父は今まで訪れた国の中で日本が最高の国の一つだと言って、日本への留学を勧めてくれました。日本へ行くなら、語学力が必要だとわかっていましたが、日本語の勉強は本当に大変でした。でも、日本に到着し、和歌山大学に留学したら、その

大変さもやりがいにも変わるだろうと思っています。

初めて家族と離れて暮らすので、勉強の喜びを体験し、神の創造の美しさを楽しみたいと思っています。人生は一度きりなので、青春時代に日本でいろいろなことを経験したいです。和歌山県の皆さんに会えるのが待ち切れません！

パク ジョンヒョン (韓国)

こんにちは。私は韓国の慶尚南道、金海で生まれ育ちました。幼い頃から両親が日本文化に関心を持っていたし、両親に日本語を学びながら自然に日本語に接する機会が多かったです。家族と一緒に何回も日本を訪問して、その度に現地の文化に接することができたことは私にとってとても楽しい思い出になり、今の選択をすることになった土台になりました。

しかし、私は現実には負けて日本に対する夢を諦めていました。そんな中、高校の時、偶然太宰治の『人間失格』を読むようになりました。その時、私は再び両親との思い出と日本社会、日本文化など日本に対して深く考えるきっかけになりました。その経験で日本の文化に対する興味がだんだん強くなって、もっと多くの人々に日本語や日本文化を身近に伝えたい気持ちになりました。このような思いから大学では日本語教育を専攻し、今年3月からは日本での留学生活を始めました。

実際に日本に住みながら言葉だけでなく文化や日常の習慣も学べるということは、とても貴重な経験だと感じています。教室で学ぶだけではわからないリアルな日本を知ること、学びの幅が広がりました。将来、日本語教師として学生たちにもっと親しくて楽しく日本語を伝えられるように努力したいです。学生たちが日本語を通じて文化や人を理解して興味を持てるように私も成長し続けたいです。

日本語や日本文化は私にとって単なる学問以上



の大切なものです。これからの留学生活も楽しみながら新しい発見と経験をたくさん積みたいです。どうぞよろしくお願いします。

彭 志城 (中国)

こんにちは、中国の浙江師範大学で日本語翻訳の修士課程を勉強している彭 志城（ペン ジーチェン）です。25歳で、大学から日本語を勉強し始め、今年で5年目になる。

初めて日本語に触れたのは、高校のときだった。当時は、日本語の独特な文字や発音にとっても興味を惹かれた。そして、大学で日本語専攻を決めた。日本語を勉強するにつれて、日本の文化にも興味がわいてきた。日本の伝統文化、例えば茶道、花道、能楽などは、とても奥深いものだと感じている。また、日本の現代文化、アニメや漫画なども大好きだ。特に『千と千尋の神隠し』は、何度見ても感動する作品だ。

今回、和歌山大学に来る機会を得て、とてもうれしく思っている。日本に来て、直接に日本語を話す環境に身を置くことで、さらに日本語の能力を向上させ、また、日本の日常生活を体験し日本文化をもっと深く理解したいと思う。和歌山は、自然が豊かな美しい場所だと聞いている。ここで過ごす半年間、忘れられない思い出になることを期待している。

最後に、和歌山大学の先生方や学生たちと交流を深め、多くのことを学びたい。どうぞよろしくお願いします。

孫 芸菲 (中国)

初めまして、ソン ゲイヒと申します。私は中国の首都師範大学の日本語学科に所属しています。現在、大学三年生で、日々日本語の勉強に励んでいます。大学では文法や会話、翻訳など、幅広く日本語に関する知識を学んできました。その中で、日本の

文化や社会に対する理解も深めることができ、日本社会への興味はますます強くなっています。

私の性格は、明るくて人と接することが好きなタイプです。友人からは「いつも笑顔で話しやすい」と言われることが多く、人の相談に乗ることも好きです。また、困っている人を見かけたら自然と手を差し伸べるようにしています。小さなことでも誰かの役に立てると、とても嬉しい気持ちになります。

日本での生活は、私にとって非常に貴重な経験となりました。最初は言葉の壁や文化の違いに戸惑うこともありましたが、先生や現地の学生、地域の方々の温かいサポートのおかげで、徐々に自信を持って話せるようになりました。日本語能力が大きく向上したと感じています。

将来的には、日本の大学院に進学し、さらに専門的な日本社会や異文化コミュニケーションについて学びたいと考えています。日本での留学経験を通して、自分の視野が広がり、これからの目標がより明確になりました。自分自身の経験を活かして、これからも努力を惜しまず、さまざまな経験を通じて成長していきたいと思っています。



後記

昨年の「WIN コンコード 33 周年記念の集い」をきっかけに元留学生達の来和が更に多くなり、我々は大いに歓迎ムードが高まっている。元留学生との会話は、留学生時代の懐かしい話やお互いの近況報告、そして WIN コンコードの最近の活動についても話題が広がる。そんな中、我々が常に感じることはいつの時代の留学生も WIN コンコードのメンバーを信頼し、全てを委ねてくれる素直な心は変わらないという事です。

この掛け替えのない相互の深い繋がりがいつもでも続くことを願って止みません。

2024 年度 活動経過

- 3月30日 新入生歓迎お花見 運動広場（加太）
- 4月19日 世界遺産高野山研修
- 5月6日 根来寺 植物公園緑化センター見学
- 5月11日 山中溪ハイキング
- 5月25日 WINコンコードニュースター第34号発行
- 5月26日 第16回NP0法人WINコンコード総会
留学生スピーチ
「インド」「インドネシア」
- 6月16日 白崎海岸公園 広川町防災センター
仁平寺見学
- 6月29日 和歌山大学同窓会「柑芦会」参加
- 9月5日 マレーシア留学生と食事会
- 9月11日 日研生と交換留学生送別会（WIN事務所）
- 9月28日 後期新入留学生歓迎会（WIN事務所）
- 10月13日 新入生和歌山市内案内
（黒潮市場、片男波公園）
- 10月19日 落語鑑賞（天満天神繫昌亭）
- 10月20日 大相撲和歌山場所秋巡業 見学
- 11月9日 WINコンコード設立33周年記念の集い
- 11月25日 ホームパーティー（会員宅）
- 12月1日 石上神宮 天理観光農園 大神神社
（三輪明神）
- 12月15日 餅つき（ボーイスカウト）
- 12月21日 八朔狩り・忘年会
- 1月2日 初詣・新年会
（和歌浦天満宮、紀州東照宮、玉津島神社）
- 1月11日 「第22回学長杯留学生によるスピーチコンテスト」奨励賞贈呈
- 2月15日 白浜観光 南部梅林 橋杭岩
- 3月4日 湯浅町見学 醤油工場
- 3月8日 黒沢牧場
- 3月18日 マレーシア卒業生を祝う会
- 3月21日 田辺市観光（奇絶峽、白浜）
- 3月23日 モンゴル、韓国卒業生を祝う会

年間

- ・就職活動支援
- ・生活関連の情報提供や支援
- ・生活用品の貸与 自転車（点検 修理）炊飯器
- ・日本社会や文化等の学びを支援
- ・ホストファミリーとして支援
- ・卒業生との交流
- ・卒業生来訪
マレーシア、インドネシア、インド、中国、
ウルグアイ、ブラジルなど

ベトナムのタイグエン（西原）の

ゾウレース祭り

ソン（ベトナム）

タイグエン（西原）は赤い土の高原で、自然が豊かな緑の森と肥沃な玄武岩の土地をもたらしてくれた。日本の関西地方の名前のように、ベトナムの南中部に位置しているタイグエン（西原）には、ダクラク、ダクノン（私の故郷）、ラムドン、コンツム、そしてザライの5つの省がある。ここは一年中温暖な気候で、多様な植物と動物が生息している。多くの民族が住んでおり、それぞれが独自の文化と伝統を持っている。この地域の文化の多様性と豊かさを形成する要素である。地元の人々は正直で素朴な性格で、シンプルで心温まる生活を送っている。彼らは自然と高原の山々に深く結びついている。タイグエン（西原）は古代の伝説の発祥地とされており、独自の文化的伝統が世代を超えて受け継がれている。

タイグエン（西原）の少数民族の中で最も特徴的な祭りの一つは、ゾウレースである。この祭りは旧暦の3月に開催され、2年ごとに行われる。この祭りは単なる娯楽ではなく、豊かな一年を願う深い意味を持っている。春は新しい始まりの季節であり、希望と再生の季節である。清新な空気と美しい自然が、この祭りの完璧な背景を提供している。

ゾウはタイグエン（西原）の山々を象徴する動物であり、長い間飼いならされ、地元の人々と親しい仲間となっている。ゾウは木材の運搬、物資の輸送、さらには動物園や祭りでのパフォーマンスにも参加する。ゾウは力強いだけでなく、賢く、穏やかで、良い記憶力を持っている。このため、ゾウは忠誠心と人間と自然の結びつきの象徴とされている。長い間、ゾウは戦争と日常生活の両方で地元の人々にとって不可欠な存在であった。人々はゾウを神聖な動物として敬い、愛し、高原の強力な象徴として崇拝している。

ゾウレースはダクラク省(Đắk Lắk)で開催され、タイグエン（西原）の伝統文化、武道精神、ゾウ乗りの技術を称える祭りの一つである。ゾウレースの他にも、祭りには水祭り、ゾウの健康を祈る祭り、バッファロー食事の祭り (Lễ Ăn Trâu mừng mùa)、新米祭り (Lễ mừng mùa)、ゴング文化など多くの祭りがある。それぞれの祭りが持つ独自の



特徴は、この地域の文化をより豊かにしている。タイグエン（西原）の人々は、これらの祭りが喜びに満ちた一年と豊かな収穫をもたらすと信じている。

ゾウレースの準備は通常、数ヶ月前から始まり、レースに参加するゾウには特別なケアが施される。ゾウの所有者はゾウを緑豊かな牧草地に連れて行き、パパイヤ、サトウキビなどの果物や野菜をたっぷりと与える。この間、ゾウは仕事をせずに休んで体力を蓄える。このケアのおかげで、ゾウたちは健康でエネルギーに満ち、祭りの準備が整う。

祭りの日には、ゾウたちが広い空き地に集まり、競争に参加する。競技は主に3つの部分から成り、ゾウのスピードレース、セレボック川（タイグエンのダクラク省で有名な川、ダクラク省から始め、カンボジアに流れ込んでからベトナムに戻る）を渡る水泳、そしてサッカーである。各競技はゾウと操縦者の調和、そして操縦者の勇気と技術を必要とする。彼らは通常、色鮮やかな民族衣装を着て、チームごとに異なる色の布を結ぶ。会場は観客の応援、ゴングの音（ゴングは一部の少数民族の特徴的な楽器であり、2005年11月15日、ユネスコは「タイグエンのゴング文化空間」を人類の口承および無形遺産の傑作として認定した）、太鼓の音で賑やかになる。

レースが始まると、審判が大きな笛を吹き、ゾウたちは出発線に進む。レースが進むと、操縦者はゾウの背中にしっかりとしがみつき、風の抵抗を減らすために身を低くする。彼らは約1メートルの長さの鉄の棒を使ってゾウを早く走らせることができる。また、ゾウを正しい道に導くための「コック」(búa Kốc) というハンマーも使用する。

ゴールが近づくと、観客の応援がさらに大きくなり、ゾウと操縦者にとって大きな動機となる。レースが終わると、ゾウたちは村に帰り、村人た

ちからの誇りと尊敬を受ける。祭りはゾウの力強さと知性を称えるだけでなく、人々が団結し、楽しい雰囲気を共有する機会でもある。

祭りの後、村人たちは集まり、食べ物や飲み物を楽しむ。ゴングの音が再び響き、キャンプファイヤーが燃え上がり、若者たちは手を取り合って踊り、年配の人々は話に夢中になる。ゾウレースの祭りは文化的なイベントだけでなく、人々がつながり、素晴らしい思い出を作る機会でもある。この祭りは、タイグエン（西原）の民族文化の中で欠かせない存在となっている。

今日、ゾウレースの祭りは、バンドン村の文化の枠を越え（かつてバンドン村がダクラク省の中心地であり、現在ただ観光地だけ知られている）、観光イベントとして多くの観光客を引きつけている。タイグエン（西原）に来ることで、観光客は活気に満ちた祭りの雰囲気を楽しむだけでなく、壮大な自然を探検し、独特な文化を体験することができる。ゾウレースの祭りは、タイグエン（西原）のイメージを世界に広め、文化探求と民族文化の理解を求める人々にとって理想的な目的地となっている。

特別な繋がり

ギレルメ（ブラジル）

私が日本に対して特別な繋がりを感じたのは、幼い頃からだった。私はブラジル人であり、日本の血を引いているわけではないが、小学校時代からブラジルの日系学校で学び、日本の文化や言葉に親しんできた。この経験が私の中に根強く残り、遠く離れた日本という国に対して、常に独特な親近感と憧れを抱くようになった。

そして、ついにその夢が現実のものとなり、私は留学生として、日本に足を踏み入れることができた。しかし、長年夢見ていた旅立ちにもかかわらず、実際に日本に到着するまでの道のりは決して平坦なものではなかった。何と言っても、これは私にとって初めての一人旅だった。親しい友人や家族がいない異国で、どのように生活していくのかという不安は日に日に募っていた。

初めての一人旅が私にもたらすプレッシャーは、想像以上に大きなものだった。異国の地での生活、言葉の壁、文化の違い、そして新しい環境に馴染めるかどうかといった多くの心配が頭をよぎった。しかし、幸いにも WIN コンコードのサポートが私

を支えてくれた。日本に到着してから2日目には、日本にまだ滞在していた先輩たちから生活を始めるための温かいサポートをしていただいた。

WIN コンコードのサポートは、単に実務的な面に留まらず、私が日本での生活に馴染むための大きな助けとなった。初めての日本での買い物も安心して楽しむことができ、日本の生活に必要な手続きをスムーズに行うことができた。そのおかげで、言語の壁や文化の違いによる困難も乗り越えることができた。

また、WIN コンコードは留学生同士の交流を積極的に促進するための多くの活動を提供している。これは私にとって非常に有意義な経験となった。例えば、秋のバスツアーでは淡路島を訪れる機会を得た。このツアーは、日本の自然美を堪能し、歴史や文化を深く理解する貴重な体験となった。また、他の留学生たちとの交流も深まり、新しい友達を作ることができた。

淡路島のバスツアーでは、美しい自然に囲まれた島を探索し、その地域の特産品や伝統文化について学ぶことができた。地元の人々との触れ合いを通じて、日本の温かいおもてなしの心を感じることができたのも、特に印象的だった。このような体験を通じて、私は日本の文化や風土への理解を深め、日本に対する愛着がますます強くなった。

WIN コンコードのサポートは、私の日本での生活を豊かにするだけでなく、異国での挑戦を乗り越えるための大きな力となった。彼らの提供する活動やサポートを通じて、私は日本での生活において多くの大切な思い出を作ることができた。私の中にある日本との特別な繋がり大切にしながら、新しい経験や出会いを通じてさらに成長していきたいと考えている。この素晴らしい国での生活が、私にとって一生の宝物となることだろう。またね、日本、またね和歌山、またね WIN コンコード。







W I Nコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

W I Nは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク、Human Active Networkで結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上にHuman Active Networkを構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、W I Nコンコードを設立するものです。

NPO法人 WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798

E-mail ryugakusei@win-concord.jp

<http://www.win-concord.jp>